

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570900185		
法人名	社会福祉法人えびの明友会		
事業所名	グループホーム顔なじみ	ユニット名	A 館
所在地	宮崎県えびの市大字榎田579番地36		
自己評価作成日	平成22年11月23日	評価結果市町村受理日	平成23年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570900185&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境。事業所名でもある「顔なじみ」の関係づくり。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

顔なじみの根幹は「施設」でなく「家」とし、それに基づく理念をつくり職員全員で共有し、日々の活動の中で生かされている。一つの棟の中に3ユニットが同居し、介護度にこだわらないバランスのとれた利用者の割り振りとなっている。入浴支援においては毎日の入浴を実施し、利用者のニーズに答えている。重要な災害対策においても、毎月利用者を交えた避難訓練を行っており、災害に対するホームの意識の高さがうかがえる。みんながくつろぐリビングにはクリスマスツリーが飾られ、季節の移り変わりが感じられる工夫にも取り組んでおり、みんなの表情が「ワクワク」し、生きがいを感じるグループホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで考えた理念を掲げ、定期的にアンケートを取り、意識付けを行っている。		家庭生活を前面に打ち出した根幹的な理念が作成され、更に具体的に地域、ケアの二つの理念を掲げている。全職員で共有を図り、それらを日々の生活の中で生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を呼んでの交流はあるが、事業所からは地元活動に参加がない。		地域住民との交流を図るための工夫として、ボランティアの受け入れ等は行われているが、ホームから地域へ積極的に出て行き、ふれあう活動が今少し乏しい感がある。	ホームから地域へ積極的に出て行き、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、行事の呼びかけや訪問時には認知症について説明している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見は、管理者で検討し職員会議にて報告し、サービスに活かしている。		運営推進会議の中で、災害対策や外出支援などの重要な意見等が出され、有意義な会議となっており、そこでの意見を生かしてサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取っているが、運営推進会議の際に担当に伝えていることが多い。		市担当者の出席する運営推進会議や市企画の行事等には参加しているが、ホームから積極的に市へ呼びかけ、協力依頼をして行く取組には至っていない。	市担当者との更なる意思の疎通を図り、ホームの実情や思案に余ること等のアドバイスを受けるなどして連携を図り、ホームのサービスの質が向上する取組に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で、身体拘束ケアについて話をしている。日中は施錠してない。		身体拘束については、日ごろから職員全員で会議等で話し合い、拘束をしないケアの実践に取り組み、日々の活動の中で生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で虐待について話をし、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議で制度について説明している。パンフレットも設置し、周知を図っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、家族の意見を聞く機会を設け、利用者会議も月一回行い、意見要望を聞いてサービスにつなげている。	家族の来訪時や運営推進会議等で幅広く利用者、家族の要望や意見を聞き、各ユニットの利用者代表が参加する利用者会議を毎月開催するなど、意見や要望を反映させる取組が行われている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りにて、意見提案を聞く機会を設けている。面接も行い、サービスにつなげている。	毎月行う職員会議や申し送り時に、職員の意見を述べる機会を設け、それらを検討・反映させサービスの向上につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、勤務状況などを日々のケアを通して把握に努め、向上心を持って働けるよう話をしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた学びの機会を計画し、研修に参加させている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流、研修を定期的に参加し、サービスの質向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人主体で向き合い、気持ちを受け止めるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をしっかり聴き、思いなどの理解に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネとも協力して、何が必要かを見極めて対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にゆったりと過ごす中で、喜怒哀楽を共にすることを大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等にて報告し、家族の意向を聴きながら関係を築いている。病院受診を家族で行ってもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の訪問がある。その際に定期的に訪問していただくようお願いしている。自宅・墓参りを行っている。	知人、友人の来訪を利用して再会の依頼をしたり、本人のなじみの自宅や生家、近所等、人間関係や社会との関係を断ち切らない支援を大切にし、出かけていく場面づくりの取組が行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を理解し、作業など共に行い楽しめるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会などを行い、移住先関係者や家族に対してこれまでのケア等の情報を提供している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の対話の中で本人の思い・希望の把握に努めている。	利用者や家族の意向を日々の活動の中から聴き取り、声なき声やサインを見落とさないよう職員が見極めるスキルを育てており、本人の思いや希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒にゆったりと過ごす中で、本人より情報を知ることがある。理解できないことは家族やケアマネに協力をもらい把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアで気づいたことなど、記録に残して記録を共有し、その都度申し送りをし把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当がアセスメントを行い、それに対して本人、家族の意向を取り入れ話し合い、作成している。	アセスメントに基づき、利用者主体の目標を立て、カンファレンス等で利用者及び家族の意見や要望、職員の気づきや要望を取り入れ、チーム全体で取り組む介護計画となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事は記録に残し、また、申し送り簿にて情報の共有に努め、介護計画にも活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族が安心して暮らせるよう努め、看護師などと連携し、通院・外出等支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店に買い物や食事に出かけたりしている。区長さん、消防、警察等を把握し、安全に暮らせるように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、事業所の協力医療機関がかかりつけ医になっている。眼科、歯科、泌尿器科等は、これまでのかかりつけ医で受診している。	家族の同意を得た協力医療機関がかかりつけ医となっており、急性期における医療機関との連携や定期的な医師の往診等が実施されている。通院に関しては、ホームの支援が主となるが、家族との情報交換はできている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護職も同じ勤務配置になっており、日々のケアを通じて協働している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常に情報交換相談に努めている。月一回は、病院関係者との会議に参加している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状ではどこまでケアできるかを見極めて、早い段階から話し合いをし、家族・医療機関とも連携を図っている。	重度化や終末期に関する考え方、本人及び家族との話し合いや意思確認の方法等に関する指針が明確に整備され、家族の同意を得る体制等ができている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、会議等でも訓練しているが、まだまだ慌てずに適切な行動ができるよう、訓練が必要である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の自主訓練、年二回の消防立ち入り訓練を行っている。地域の消防団にも協力ももっているが、合同訓練は実施していない。	総合防災訓練実施記録も整備され、自主的な利用者も交えた毎月の避難訓練も確実に行われている。災害対策について職員の意識も高く、今後、更に地域を含めた訓練の強化に向け、全員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアで気づいた時は注意し、利用者の誇りやプライバシー確保に努めている。	職員は日々の活動の中で、利用者の人権や誇りを損ねることがないように、利用者の立場に立った丁寧な言葉かけや対応に配慮し、プライバシー確保の徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できなくても、表情や全身での反応を観察し、本人の好み、思いを把握できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、本人のペースに合わせて、無理せずに状況に応じている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向に沿って支援。馴染みの美容院の利用もある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の作業は、利用者・職員と共に行い、食事もしている。	食事の準備は、盛りつけなどを利用者と共に、職員も同じテーブルを囲み食事をしている。さりげない言葉かけや介助がなされ、食事を楽しむ支援が行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取量のチェックし把握。個々の状態に合わせて形態を変えたり、食器も変えたりして対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の利用者は消毒対応し、個々の状態に合わせて、ウエットティッシュなどでも口腔ケアしている。			

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ・パット使用でもポータブルトイレなどを使用し、可能な限りトイレでの排泄を対応している。		おむつをしないですむ暮らしは、身体機能の向上につながる大切な支援であることを全職員が理解し、おむつ使用が常態化しないよう排泄パターンをチェックし、トイレで排泄できるようにトイレ誘導等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせ、適度な運動の働きかけや食物繊維の多い食事を提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からの入浴となっている。希望で同姓介助入浴の利用者がいる。		浴槽は広々とゆったりしており、毎日入浴できるよう支援をしている。同姓介助を希望する利用者には対応し、可能な限りニーズに応えられるよう、日々努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや居室など、個々の安心して休息できる場を把握している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に処方箋を綴り、いつでも確認でき、日頃より飲み忘れ、誤薬防止徹底、症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた能力を活かせるように努め、個別で外食したり、ドライブ等で気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外食、ドライブ、墓参り等などに外食や墓参りなど、希望を取り入れながら外出支援は行われているが、外に出る利用者の割合が全体的に少なく、日常的に戸外へ出て五感刺激を感じてもらうまでの支援には至っていない。		日常的な外出支援は希望者のみでなく、外出困難な利用者にも目を向け、積極的に支援して行く取組にも期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	A館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を所持している。買い物の際、本人に払ってもらってる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や電話で涙ぐまれる利用者がおられる。自ら手紙を書かれたりされ、プライバシーに配慮し対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定位置のソファなど決まっており、居心地よく過ごす場がある。不快な音、光には常に配慮している。	共用空間が不快感や混乱を招くような要素は無い。リビングには少し大きめのソファが置かれ、クリスマスツリーが各ユニットに飾られ、季節感を取り入れ、ワクワクさせるような居心地の良い工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファ設置、玄関内外にベンチ設置など、一人や少人数で過ごせるスペースがある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の馴染みの物（人形・テレビ・位牌など）を活かして、その人らしく落ち着いて過ごせるように努めている。	畳の間である居室に、上履きそのままあがりこむ場合があるため、清潔には特別に配慮し取り組んでいる。それぞれが生活歴を感じさせる居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする為に、表示を大きくわかりやすくしている。			